

ウトナイ湖通信



No.258

2025 年 11 月号



木々が紅葉し、葉が落ちて、枯れ葉が地面をおおう時期になりました。地面に落ちた枯れ葉から、ガサガサと音がするところをよく見ると、落ち葉の下にある木の実や虫を探す野鳥たちが見られるかもしれません。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

11月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖



11月9日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員: 10 名程度
- 対象: どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込: 不要。直接当センターへ。



ボランティア体験講座

～ウトナイ湖の自然を調べる仲間を募集中～
水鳥カウント調査体験



11月30日(日) 9:30~12:00

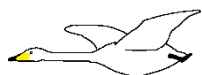
前半は当センターのボランティア活動やウトナイ湖の説明、後半は屋外で水鳥カウント調査を体験いただきます。ご希望の方は受講後に当センターボランティアとしてご登録していただけます。

- 定員: 申込先着 5 名
- 申込: 11/1(土)~11/29(土)まで
電話または事務所窓口へ
- 対象: 高校生以上

※当センターのボランティアは本講座を受講した方のみ登録いただけます。

市民ギャラリー

「苫小牧の水鳥絵画展」



会期: 11月14日(金)~11月30日(日) 主催: 苫小牧市環境生活課
内容: 苫小牧市民の皆さんが描いた水鳥が並びます。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前 9 時~午後 5 時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



～ウトナイ湖～

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



オオコノハズク



搬入時の様子



身体検査の様子

9月22日



9月23日

リリース

原因：人工物衝突疑い

市内で飛べずにいたところを保護される。

初診では明らかな外傷は認めなかったが、鼻腔周辺にわずかな出血跡があった。

人工物等への衝突の際に、呼吸器を損傷した可能性があったが、全身状態等に異常は認めなかった。

念のため、一晩経過観察とし、翌日リリースとした。

オオコノハズク（フクロウ目 フクロウ科）

全長24cm。雌雄同色。全体に灰褐色で、黒や白、褐色の斑があり複雑な模様になっています。北海道では1年を通じ生息する種で、平地から山地の森林でくらしています。目が大きく、虹彩はオレンジ色をしています。主に哺乳類や小鳥類を捕食しますが、カエルやトカゲ、昆虫なども食べます。

トピックス



ボランティアフォローアップ研修

観察会参加者、来館者対応について学ぶ

当センターイベント等の参加者や来館者への満足度向上を目指し、レンジャーやベテランボランティアがこれまで経験した失敗例や対応例などを発表、ルールなどを共有しました。「今後の活動の参考になった」「よりよい対応ができるようになりたい」といった感想が寄せられまし



ウトナイ湖・秋の渡り鳥 DAY を開催

ウトナイ湖にハクチョウ類、ガン類などが飛来している10月13日、渡り鳥をテーマとしたイベントを開催しました。講演会や野鳥観察データアプリ eBird の体験会ほか、渡り鳥の重さクイズやマガンのカウント体験など、来館者に楽しみながら渡り鳥について知っていただきました。



ボランティアコーナー

「秋の渡り鳥 DAY」に参加しようと思った理由はなんですか？

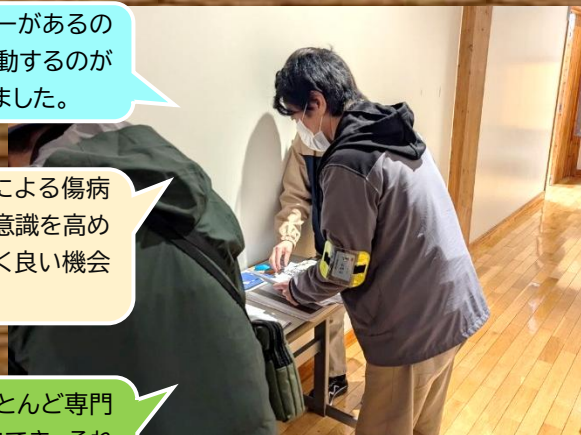
ウトナイ湖はラムサール条約湿地、国指定鳥獣保護区で野生鳥獣保護センターがあるので北海道のなかでも非常に貴重な場所です。そのような所でボランティア活動するのが有意義ですし、来館者の方々にも同じ想いを共有し理解して頂きたく参加しました。

参加してみた感想を教えてください。

講演会でのウトナイ湖のごみやマイクロプラスチック問題、更にはそのごみによる傷病鳥獣の実態など、興味のある講演ただけに非常に勉強になり、より一層意識を高めることが出来ました。なにより、ごみによる被害を来館者の方々知って頂く良い機会になったと思います。

印象に残ったことがあれば教えてください。

世界最大の野鳥観察データベースである「eBird」の体験では、これまでほとんど専門家によるデータでしか知ることが出来なかったことが、素人でも誰でも参加でき、それをスマホ一つで、一目で世界中のデータを確認出来るのが凄いと感じました。



講演会の受付の準備をする
たなか さん

10/13 に開催した「秋の渡り鳥 DAY」に参加された
たなか さんに、インタビューしました。

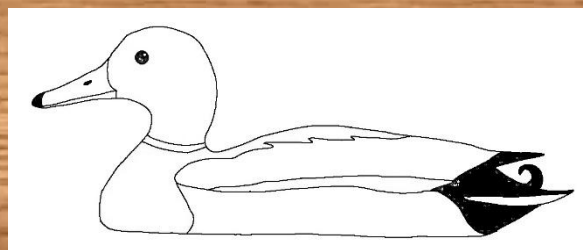
ウトナイ湖 お楽しみコーナー

【ウトナイ湖・めりえ】

秋から冬のウトナイ湖でよく見られる水鳥
「マガモ」をぬってみよう！

ウトナイ湖では秋から冬に群れでいる姿がよく見られます。右の写真は生殖羽※のオスです。
写真をよく観察して色をぬってみましょう♪

※繁殖期にオスがメスにアピールするための色鮮やかな羽毛



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



レンジャーのおすすめ自然情報



【オオワシ】

全長88-102cm、翼を広げると220-250cmで、日本には冬鳥として飛来。ウトナイ湖上空を旋回していることもある。



【カケス(田舎ヤマカケス)】

全長約33cmのカラスの仲間。落ち葉の下から見つけたドングリを、地中や樹洞などに隠し、冬の間の食べ物として利用する。



特徴はクリーム色の額

オス



特徴は垂れ下がって見える風切羽

オス

【ヒドリガモ】

全長42-50cm、翼を広げると71-85cmで、水草などを食べる。冬には岸辺や凍った湖上を歩く姿が見られる。

【ヨシガモ】

全長46-54cm、翼を広げると78-82cm。道の駅前や保護センターの望遠鏡からも見られることがある。

例年、11月上旬頃になるとオオワシがウトナイ湖にやってきます。翼を広げると2mを超えるほど大きく、真っ白な尾羽と黄色い大きなくちばしが特徴です。

湖では、冬鳥として渡来する水鳥が増え、カモの仲間たちは、色鮮やかなオスがメスにアピールする様子も見られます。

観察の際は、手袋や帽子などの防寒具も忘れずにご用意ください。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【秋】

秋のお勧めポイント

ロシア極東から渡ってきたマガンやヒシクイ、ハクチョウ類、カモ類が湖で水草などを食べたり、のんびりと休息している姿を見ることができます。林の中はカラフルな木の実や紅葉で彩られ、シマリスなどが冬支度を始めています。

